

【強制隷属】「自分で股を開いて、淫らにねだってみろ」冷徹社長の命令
～秘密の風俗勤務がバレ、借金ごと全て『私物化』された広報担当～

サンプル（一部抜粋）

（ガチャンとドアを閉め、鍵をかける音）

「...うちの社員が風俗で働いているって情報が入ってな。
わざわざ予約をしたわけだ。」

「...頭を下げて謝ったって、もうどうしようもないことだ。
うちの会社のホームページで広報担当として、お前の顔を出してるよな？
どうしてバレないと思ったのか、その愚かさに俺は驚いているよ。」

「...会社の評判を落としかねない行動なのを、理解しているのか？
何かあればクビにすると、数週間前に全社員に向け、忠告したのに。」

「...家族の借金のために仕方なく...？
そういう事情を話せば、俺が『仕方ないな』と折れるとでも思ったのか？」

「お前のことを色々と調べさせてもらった。
反応が悪い、会話も弾まない、マグロ、入れさせてくれない...
散々な事を書かれてるな。」

（強引にベッドに彼女を寝かせるギシ音）

「中途半端な覚悟で会社を裏切り、社長の俺を裏切り、家族の借金を一人で背負うからこう
なるんだよ。」

（ネクタイを緩める音）

「そんな甘いお前に、おしおきだ。」

（ネクタイで両手を縛り、ぎゅっとかたく結ぶ音）

「...入れてくださいと懇願しろ。
自分で股を開いて、淫らにねだってみろ。」

（自分でくぱっと秘部を開いておねだりをする、小さなくちゅ音）

「...良い子だ。
じゃあ、俺の全部を飲み込め。」

（少しの間とクスクス笑う声）

「...そうか。なら逃げられないように固定して、奥を犯してやる。」